

編集後記

本号では4編の依頼原稿を掲載いたしました。ご多忙の中、ご寄稿いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

辰巳陽一教授による巻頭言「医療と安全の『間（あわい）』を考える」では、医療と安全が単純な対立関係ではなく、互いに重なり合う「あわい」の中で成立しているという独自の視点が提示されました。Safety-IとSafety-IIの概念を軸に、事故から学ぶだけでなく日常診療の中で医療者が行っている適応行動からも学ぶべきであるという指摘は、すべての診療科に通じる重要なメッセージです。医療安全を生物の「動的平衡」に喩え、変化の中で維持される安全の本質を描き出した論考は、私自身の日々の診療姿勢を振り返る契機となりました。

頼晋也准教授による総説「ホジキンリンパ腫におけるゲノム異常と腫瘍微小環境」は、循環腫瘍DNA解析、空間プロテオミクス、single-cell RNA sequencingなど最先端の技術を駆使した研究の集大成です。腫瘍組織中にわずか1%程度しか存在しないHRS細胞の解析という技術的困難を克服し、古典的ホジキンリンパ腫を4つの分子サブタイプに再分類した功績は特筆に値します。なかでもCSF2RB変異が腫瘍微小環境の免疫構成を能動的に制御するという発見は、将来の層別化治療に直結する画期的な知見です。Nature誌やCancer Discovery誌に掲載された研究成果を本誌でご紹介いただけたことを大変嬉しく思います。

松本逸平教授による「膵癌に対する外科集学的治療の進歩と今後の展望」は、5年生存率約10%という最も予後不良な癌腫に挑む外科医の姿を力強く描いています。切除可能性分類の導入、JASPAC01やPrep-02/JSAP-05試験による補助化学療法確立、さらにコンバージョンサージェリーの展開まで、膵癌治療の歴史と最前線が見事に俯瞰されています。KRAS標的治療という新たなブレイクスルーへの期待とともに、近畿大学が研究事務局を務める臨床試験の紹介もあり、本学の膵癌治療への貢献を誇らしく感じました。

橋本衛教授による「研修医のための精神医学」は、初期研修医が精神科で習得すべき知識と姿勢を網羅した実践的な内容です。嫉妬妄想を訴える高齢患者への共感の示し方など、具体的な臨床場面を交えた解説は非常にわかりやすく、精神科以外の医師にとっても日常診療に役立つものです。患者の人権への配慮、偏見の払拭、全人的医療の実践という橋本教授の研修理念は、医師としての原点を思い起こさせてくれます。

本号の4編に共通するのは、各分野の最新知見を臨床に還元し、目の前の患者さんにより良い医療を届けたいという熱意です。本誌が基礎と臨床の架け橋として医学の発展に貢献できるよう、今後も内容の充実に努めてまいります。読者の皆様からの積極的なご投稿をお待ち申し上げます。

近畿大学医学雑誌 編集委員長
大塚篤司

近畿大学医学会役員

会長 西尾和人 幹事(編集) 大塚篤司
副会長 東田有智 監事 重吉康史
幹事(庶務) 松村謙臣 評議員 医学部主任教授
幹事(会計) 永井義隆

編集委員会

大塚篤司(編集長)
伊藤彰彦 杉本圭相 上碓俊法 中川和彦
(教育講座)
西尾和人
(シリーズ最新のがん)

「原稿作成の手引き」は各巻の第1号にあります。
また必要な方は編集部宛お申込み下さい。

近畿大学医学雑誌

第51巻 第1・2号

令和8年6月11日 印刷
令和8年6月17日 発行

発行人 西尾和人
編集人 大塚篤司
発行所 近畿大学医学会

〒590-0197 大阪府堺市南区三原台1丁14番1号
近畿大学医学部内

印刷 APリユース合同会社

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・
出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。